

学びの風景(22)

2022.7.13(水)

“不登校”の生徒が入塾してきました

10年ほど前になりますが…
学校へ行っていなかった中卒生が入塾してきました。

正確に言うと、学校へ行っていないのではなく、クラスの教室ではなく、別室で個人指導を受けていた、ということです。

当然、国立の中学校ですから、その子ひとりのために先生がつきっきりで指導することなど不可能です。問題集を与えられて、それを自分でひとりで学習するだけの毎日だったそうです。

これはつらいですね。大人でも精神的にまいります。孤独感、寂寥感にさいなまれます…

入試会場で、頭の中が“真っ白に”

しかし、テストは他の生徒といっしょに受験し、つねにトップクラスの成績を取っていたそうです。

とりわけ、数学が得意で、後日談になりますが、ある民間の全国テストを受験したときには、100点を取り、全国1位になっています。

当然のことですが、県トップの進学校を受験することになりました。
本人はもちろん、まわりのだれもが合格を疑いませんでした。

入試では、数学は第2限目にあります。
その絶対的に自信をもっていた数学の問題を解いていたところ、大問4問のうちの第2問目の問題で解けない問題が現れました。
後日の本人の話ですが、「頭の中が真っ白になった」そうです。
ほんとうに、真っ白に。
よく、テレビでフラッシュがたかれたときのように画面が真っ白になる映像が流されますが、あのように、目の前が真っ白になって、何も見えなくなったそうです。

その後、何かを書いたのですが、覚えていないそうです。
そのあとの、社会、理科、英語も、書いたことはなにも覚えていないそうです。

リベンジは個別指導塾で

当然、合格できませんでした。
その不合格を確認して、数専ゼミを訪れたものです。

本当に、テレビドラマのようなお話ですが…。

学校のこともあったので、予備校には通えそうもありません。
個人指導の塾で指導を受けるしかないということで数専ゼミだったのです。

合格 → 高校の授業 しかし…

1年間、数専ゼミで学習し、再受験で、合格しました。

しかし、
やはり、一斉授業になじめなくて、1年もしないでその高校をやめてしまいました。
その後、ニュージーランドの高校へ留学したとお母さんから電話がありました。
あのニュージーランドで大地震があった数年前のことです。

なぜ、数専ゼミでは、1年間も継続して学べたのか

では、数専ゼミの授業だけは、なぜ1年間も続けて出席できたのか。
たぶん、たぶんですが、数専ゼミの授業が集団的個別指導であったからではないでしょうか。

数専ゼミの個別指導は、「集団的個別指導」といって、
1つ教室に先生が1人おり、そのまわりに生徒が3～4人いっしょに勉強するというものです。
これは、精神的には、安心して勉強できる環境といえます。
先生と2人きり、というのはひどく緊張します。そこにいくと、他の生徒もいるという状況はこの緊張感を和らげます。だから、安心して勉強に打ち込めます。
また、分からないときは、すぐ目の前にいつも先生がおりますから、教えてもらえるという安心感があります。
とくに、このような過去のトラウマをもった生徒にとって、こういう授業形態は、最適な学習環境であったのでしょう。
なによりも、1年間、休むことなく、出席できたことがそれを証明しています。

個別指導ではだめだったはずですが…

だから、だから…
巷間、いま流行ののブースという困いにかこまれた個別指導では、けっこう緊張している生徒がいるはずですが。個別指導とは、こういうものと思い込んでいるのかもしれませんが。
となりに先生がいて、自分の鉛筆の先をじっと診ている状況を考えてみてください。大人でもかなり緊張します。胃がきりきりと痛みます。

ただ、数専ゼミのような集団的個別指導は、どの塾でもできるというわけではありません。
たとえば、市販問題集を使って、4人に個別指導をしているとしましょう。
4人が同時に解けない問題を質問してくることがあります。こんなとき、どうしますか？
3人に待ってもらって…となります。
1～2分で指導が終わればいいのですが、問題によっては、あるいは生徒の学力によっては、1

題を指導するのに10分～20分かかることがあります。1コマ80分か90分の個別指導ですから、1日1題しか教えてもらえないことも起こります。

でも、そんなことは生徒は家に帰って言いません。だから、父母の方々はいっぱい勉強してきたと思込んでおります。個別指導を受けているのに、なかなか成績があがらないな、と不思議に思いつつ…

数専ゼミの集団的個別指導

数専ゼミの集団的個別指導が可能なのは、教材にその理由があります。

数専ゼミの教材は、基本的には、生徒個人で学び取ることができるように作成されたオリジナル教材です。

演習問題の前には、すべてその問題を解くのに必要な基礎知識を解説した教材があります。

★解法の技術★とタイトルのついている例題です。これを生徒は自分の力で学びとります。

次に、生徒はその例題を参照しつつ演習問題を解きます。

また、その演習問題もA4判のプリントには、問題が1～4題くらいしか載っていません。

その中の1題が解けなくて、生徒が質問してきたとき、先生はまず、例題を示し、「ここをまねて解いてご覧」というような指導をします。1からすべて解き方を教えるわけではありません。だから、ひとりあたり数秒で指導を終えます。例題を理解していれば解けるように問題が作ってあります。

それでも解けないときは、今度は直接的なヒントを与えます。これも数秒です。

これで、ほとんど解けます。

例えば、4題載っていれば、ほぼ同じ手順で解ける問題を載せてありますので、1題が解けるようになると、残りの3題も自分の力で解けるようになります。

心理的に最適な学習環境で、しかも、ひとりひとりに行き届いたていねいな指導ができるのが数専ゼミの集団的個別指導システムです。

50年間の数学専門指導の歴史から生まれた”だれでも数学を得意にする”指導法です。

ためしてみる価値は十分あります。

だれでも数学を得意にする数専ゼミの数学教室です。

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp